

令和元年度 事業報告書

【財団設立30周年記念事業】

財団設立30周年を記念し、下記3事業を公益目的事業1および公益目的事業2の一環として実施した。（※30周年記念行事にかかる決算は各事業において計上しているので参考値として記載。）

(1) 記念シンポジウム 【自主財源】 (4,758 千円)

費用按分の内訳:長寿たすけ愛講演会開催事業費 4,758 千円

長寿たすけ愛講演会開催事業の一環として「明るく活力のある長寿社会の実現に向けて、人生100年時代を語る」をテーマにシンポジストによる講演ならびにパネルディスカッションを下記のとおり開催した。

- ①2019年 5月18日(土) 名鉄ニューグランドホテル (参加者数:120人)
- ②2019年10月12日(土) 名古屋マリオットアソシアホテル(台風の影響で中止)
- ③2019年12月26日(木) 名古屋マリオットアソシアホテル(参加者数:201人)

(2) 記念式典 【自主財源】 (4,933 千円)

費用按分の内訳:若手研究者表彰事業費 472 千円
共通事業費 2,654 千円
管理費 1,807 千円

*シンポジウムの費用按分は(1)記念シンポジウムにて計上済み

財団設立30周年記念事業として第3回記念シンポジウム、式典、懇親会を同日に開催。長寿たすけ愛講演会開催事業費、若手研究者表彰事業費、共通事業費、管理費(法人会計)にて費用按分し各事業の一環として開催した。

- ①2019年12月26日(木) 名古屋マリオットアソシアホテル
記念式典 (参加者数:100人)
懇親会 (参加者数: 89人)

(3) 30周年記念誌の作成 【自主財源】 (281 千円)

費用按分の内訳:出版事業(機関誌) 281 千円

「設立30周年記念誌」を作成。令和2年5月に発刊。

出版事業(機関誌)の一環として長寿科学の広報活動に活用する。

発行日 2020年5月

発行部数 2,000部

()内は前年度

公益目的事業 1 ～長寿科学研究等支援事業～

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを支援する事業

(1)長寿科学研究者支援事業【自主財源】

27,916 千円
(36,934 千円)

長寿科学研究に携わる若手研究者を対象に、その研究活動を幅広く財政的な支援を実施することにより、研究者の育成と長寿科学の振興を図った。1人あたりの支援限度額は3年間で600万円としている。

令和元年度は15名に総額24,787,456円の助成を行い、平成20年から68名のべ138件、263,692,835円の助成を行った。

	計画数	応募数	実施数	備 考
継続研究支援 (3年目)	5名	5名	5名	H31年3月6日:審査評価委員会にて研究期間が最終年度となる5名から研究成果の発表を受け、審査の結果5名の継続を決定した。
新規研究支援 (1年目)	10名	112名	10名	R1年5月29日:審査評価委員会にて申請分の審査を行った。
合計	15名	117名	15名	

令和元年度 採択状況

No	研究者	所属施設	研究課題	期間	申請金額	決定額	摘要
1	はしづめ じゅん 橋詰 淳	名古屋大学	嚥下音分析に基づく嚥下評価機器の開発と高齢者の誤嚥性肺炎予測アルゴリズムの構築	29-R1 3年計画 3年目	2,000,000	2,000,000	継続
2	しのはら みつる 篠原 充	国立長寿医療研究センター	高齢者の脳領域間の疾患脆弱性の違いに着目した認知症の分子基盤の解明	29-R1 3年計画 3年目	1,500,000	1,499,744	継続
3	ひらた ゆうすけ 平田 祐介	東北大学大学院	トランス脂肪酸による細胞老化の促進作用機構および加齢性疾患発症機序の解明	29-R1 3年計画 3年目	2,253,000	2,253,000	継続
4	さわおか し の 澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団	ゆるやかなソーシャルキャピタルを醸成する介護予防事業の構築・継続要因に関する研究	29-R1 3年計画 3年目	1,132,000	1,132,000	継続

No	研究者	所属施設	研究課題	期間	申請金額	決定額	摘要
5	すずき けいすけ 鈴木 啓介	国立長寿医療研究センター	長寿科学への貢献に資する効率的かつ実用的な臨床研究のモニタリング体制の開発	29-R1 3年計画 3年目	2,000,000	2,000,000	継続
6	まつざき きょうこ 松崎 京子	東京医科歯科大学大学院	骨格筋組織幹細胞の加齢性機能低下の分子機構の解析と加齢性筋萎縮治療の分子標的の抽出	R1-R2 2年計画 1年目	3,000,000	3,000,000	新規
7	じげみず だいち 重水 大智	国立長寿医療研究センター	アルツハイマー病発症・移行リスク因子の同定と早期予測診断システムの開発	R1-R2 2年計画 1年目	3,000,000	3,000,000	新規
8	もりわき むつこ 森脇 睦子	東京医科歯科大学大学院	入院中の転倒転落発生と病棟アクティビティの関連 ～環境要因を探る1施設でのPilot Study～	R1-R2 2年計画 1年目	700,960	700,960	新規
9	あんどう か な え 安藤 香奈絵	首都大学東京	加齢による神経細胞内ATP低下に注目した新規抗脳老化戦略の開発	R1-R3 3年計画 1年目	3,000,000	2,991,550	新規
10	ただ ひろぶみ 多田 敬典	国立長寿医療研究センター	シナプスエイジング分子メカニズム解明による認知症治療薬開発基盤の構築	R1-R3 3年計画 1年目	1,000,000	1,000,000	新規
11	ながい としゆき 永井 利幸	北海道大学大学院	最先端技術を駆使した日本人高齢者心不全における新規高精度予後予測モデルの開発	R1-R3 3年計画 1年目	262,020	262,020	新規
12	したら ひとし 設楽 仁	群馬大学大学院	高齢者の頸椎・頸髄疾患における中枢神経代償メカニズムの解明	R1-R3 3年計画 1年目	2,006,250	59,779	新規
13	おおしも しんいちろう 大下 慎一郎	広島大学大学院	呼吸音可視化・自動解析プログラムによる在宅高齢者の遠隔医療システム開発	R1-R3 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
14	むとう ごう 武藤 剛	千葉大学	認知症・介護予防につながるIoT活用による行動変容促進サービスの創出に関する研究	R1-R3 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
15	おおすが ようすけ 大須賀 洋祐	東京都健康長寿医療センター研究所	高齢者の就労現場で簡便に評価可能な労働安全指標の開発	R1-R3 3年計画 1年目	1,068,000	888,403	新規
合 計					26,922,230	24,787,456	

(2)長寿科学関連国際学会派遣事業【自主財源】3,138 千円
(3,641 千円)

長寿科学研究に携わり優れた研究成果をあげた若手研究者を、海外で開催される関連国際学会に研究成果発表のため派遣し、長寿科学研究の国際協力・国際交流を図るとともに、研究者育成に寄与する事業として実施した。1 年を 3 期に分け、每期 3～4 名、年間で 13 名の派遣を計画し 13 名を採択、派遣した。なお 1 人当たりの支援限度額を 40 万円としている。

	計画数	実施数＜応募数＞	備考
第1期(4/1～7/31 開催分)	3～4人	5人＜17人＞ ・アメリカ 3人 ・カナダ 1人 ・プエルトリコ 1人	
第2期(8/1～11/30 開催分)	3～4人	6人＜30人＞ ・アメリカ 3人 ・台湾 2人 ・ポーランド 1人	
第3期(12/1～3/31 開催分)	3～4人	2人＜10人＞ ・フランス 2人	1名は新型コロナウイルス感染症蔓延のため、派遣辞退
年間総合計(第1期～3期)	13人程度	13人＜57人＞	

令和元年度長寿科学関連国際学会派遣事業 採択状況

No	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額 (円)
1	1	たかしま しょうた 高島 翔太	北海道大学 大学院医学院 皮膚科学教室 大学院生	2019 年米国研究皮膚科学会 アメリカ シカゴ	令和元年 5月8日～ 5月11日 (4日間)	MVK 遺伝子変異を伴う汗孔角化症 ptychotropica type の病態解析	264,540
2	1	さかきばら としひろ 榊原 利博	名古屋大学大学院 医学系研究科病態内科学講座呼吸器内科 大学院生	米国胸部学会会議 2019 アメリカ ダラス	令和元年 5月17日～ 5月22日 (6日間)	すべての市中肺炎患者に対する重症化予測式：ALL-COP SCORE	321,680

No	期	氏 名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額 (円)
3	1	あらい のぶこ 荒井 信彦	慶應義塾大学 脳神経外科 助教	第 13 回 HHT 国際科 学集会 プエルトリコ リオグランデ	令和元年 6 月 12 日～ 6 月 16 日 (5 日間)	Sporadic AV の 各 components の評価及び HHT に頻発する micro AVM 検 出 に 関 し て arterial spin labeling と極端エコー時間を組み 合わせた MRI software である silent MRA の有用 性を検討した研究	237,610
4	1	くろさわ えみ 黒澤 実愛	国立長寿医療研究セ ンター 口腔疾患研究 部 口腔感染制御研 究室 流動研究員	国際歯科研究学会 学術大会 カナダ バンクーバー	令和元年 6 月 19 日～ 6 月 22 日 (4 日間)	老齡マウスの顎下腺にお ける老化関連 T 細胞の集 積	245,070
5	1	はっとり ゆかり 服部 ゆかり	東京大学大学院 医学系研究科加齢医 学 大学院生	アルツハイマー病協 会 国際会議 2019 アメリカ ロサンゼルス	令和元年 7 月 14 日～ 7 月 18 日 (5 日間)	老年病科医による認知症 入院患者の服薬調整	314,970
6	2	つちや かおる 土屋 かおる	亀田総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 医員	アメリカ耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科 2019 年 学術総会 アメリカ ニューオリンズ	令和元年 9 月 15 日～ 9 月 18 日 (4 日間)	多系統萎縮症における声 帯運動障害, 呼吸障害, 嚥下障害の発症時期に 関する検討ー臨床病型に よる比較ー	156,660
7	2	なかじま つねお 中嶋 恒男	大阪大学大学院 医学系研究科 大学院生	欧州老年医学会学術 大会 2019 ポーランド クラクフ	令和元年 9 月 25 日～ 9 月 27 日 (3 日間)	中枢神経系と抹消におけ る糖代謝制御機構の差異 についてのマウスを用い た解析	270,640
8	2	けん しゅうめい 権 秀明	国立長寿医療研究 センター 認知症先進医療開発 センター アルツハイマー病研 究部 流動研究員	北 米 神 経 科 学 会 2019 アメリカ シカゴ	令和元年 10 月 19 日 ～ 10 月 23 日 (5 日間)	スルフォニル尿素受容体 欠損がもたらす老年性神 経変性への脆弱性	290,410

No	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額 (円)
9	2	鯉沼 真吾 ^{こいぬま しんご}	国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター アルツハイマー病研究部 流動研究員	神経科学会 2019 アメリカ シカゴ	令和元年 10月19日～ 10月23日 (5日間)	ラパマイシンによるオートファジーの誘導はエンドサイトーシス障害の有無にかかわらずエクソソームの分泌を抑制し、細胞内Aβの蓄積を促進する	274,460
10	2	伊藤久美子 ^{いとく みこ}	東北大学大学院医学系 研究科公衆衛生学分野 博士課程	第11回アジア／オセアニア国際老年学会議 台湾 台北	令和元年 10月23日～ 10月27日 (5日間)	日本の高齢者における歩行時間と無障害生存期間：大崎コホート 2006 研究	134,340
11	2	渡邊 一久 ^{わたなべ かずひさ}	名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・ 老年科学 大学院生	第11回アジア／オセアニア国際老年学会議 台湾 台北	令和元年 10月23日～ 10月27日 (5日間)	在宅高齢患者における嚥下機能と予期せぬ入院の関連	74,210
12	3	大須賀洋祐 ^{おおすが ようすけ}	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員(主任)	フレイル・サルコペニア国際学会 フランス トゥールーズ	令和2年 3月11日～ 3月13日 (3日間)	筋萎縮女性における運動実践と beta-hydroxy-beta-methylbutyrate 補充が筋厚と筋質に及ぼす効果：二重盲検プラセボ対照無作為化比較試験の二次解析	242,475
13	3	藤本 拓 ^{ふじもと たく}	大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学 特任助教	フレイル・サルコペニア国際学会 フランス トゥールーズ	令和2年 3月11日～ 3月13日 (3日間)	IL-15Rα は同化的マイオカインである IL-15 の分泌に必要な細胞膜上への輸送を担う	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、ビデオ発表にて参加のため辞退
令和元年度採用者：13人 第1期(5人) 第2期(6人) 第3期(2人)うち辞退(1人)							2,827,065円

(3)若手研究者表彰事業【自主財源】

2,882 千円

(2,782 千円)

若手研究者表彰事業は、平成 12 年度から実施しており、当時、財団が行っていた厚生労働科学研究推進事業に携わる研究者の中から、優れた研究成果をあげた方を審査評価し表彰することとして、スタートした。平成 23 年度までは、表彰を「財団会長賞」、「財団理事長賞」、「財団奨励賞」として行ってきたが、平成 24 年度からは、表彰の対象を厚生労働科学研究に関わる研究者のみではなく、広く長寿科学研究に携わった研究者とすることとし、表彰名を「長寿科学賞」として表彰し、正賞楯および副賞を贈呈している。なお、副賞には研究費(100 万円)を交付している。

【令和元年度 受賞者】

氏名	所属機関・職名	研究課題名	研究期間
中村 修平	大阪大学大学院 准教授	加齢によるオートファジー低下機構 の解明	平成 29 年度～ 令和元年度
間野 達雄	東京大学医学部附属病院 助教	Alzheimer 病剖検脳の神経細胞特 異的メチル化解析から明らかになっ た、神経変性における DNA 傷害蓄積 の重要性	平成 23 年度～ 平成 29 年度

【表彰式】

- ・日時:令和元年12月26日(木) 17:10～17:40
- ・開催場所:名古屋マリOTTアソシアホテル 16階 アゼリア



公益目的事業 2 ～情報提供事業～

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

(1)業績集の発行【自主財源】

7,778 千円

(8,773 千円)

長寿科学研究の学術的研究成果の中で、社会のニーズにあったテーマを定め、毎年1回、医療従事者向けに編集した研究マニュアルを業績集として発刊し、全国の自治体、病院、大学などの関係機関に無償配布し、その活用を図ることにより研究成果の普及啓発を図った。

今年度は、食事と栄養、口腔ケアをテーマに専門家の意見や研究成果をまとめた『高齢者の食事と栄養，口腔ケア』を5,000部作成、また財団HPでも公開準備中。



(2)機関誌の発行【自主財源】

20,366 千円

(27,707 千円)

① 機関誌

健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かり易く広報するために、機関誌「Aging & Health (エイジングアンドヘルス)」を年に4回(春・夏・秋・冬)各8,000部発刊した。全国の自治体、国立病院、大学などの関係機関、地域包括支援センターなどに無償配布するとともに、財団HPでも閲覧を可能にし、多くの方にご覧いただいている。

また、2016年春号で掲載した転載物にかかる著作権侵害について、原著者との合意に基づき是正措置を実施した。



② 設立30周年記念誌

設立30周年記念事業の一環として記念誌を制作

2020年5月に発刊

発行部数2,000部発行し、関係機関に無償で配布し広報活動に活用する。

機関誌「Aging&Health」の発行内容

	春号(89号)	夏号(90号)
エッセイ	立川らく朝の健康嘸 春号:「まず形から入ろう」 夏号:「寿司屋での選択」 立川らく朝(落語家・医学博士)	
巻頭言	改めて実感した“女性の長寿” 草刈淳子(愛知県立大学名誉教授)	加齢と栄養について考えてみよう 折茂 肇(骨粗鬆症財団理事長)
特集	老いとジェンダー ①「老いにみる男女の違い」 袖井孝子(お茶の水女子大学名誉教授) ②「性差医療 男女の更年期障害」 天野恵子(野中東皓会 静風荘病院顧問) ③「骨粗鬆症― 転倒などによる骨折が寝たきり・要介護につながる―」 折茂 肇(骨粗鬆症財団理事長) ④「『女の一生』が貧乏をつくる― 老いて女の貧乏 脱出法―」 樋口恵子(高齢社会をよくなる女性の会 理事長)	高齢者の栄養管理 ①「フレイル・サルコペニア予防の視点からの栄養管理」 鈴木隆雄(桜美林大学老年学総合研究所 所長) ②「老化の長期縦断研究から見た高齢期の栄養」 大塚 礼(国立長寿医療研究センター室長) ③「高齢期の栄養と口腔機能の関わり」 本川佳子(東京都健康長寿医療センター 研究員) ④「高齢者の低栄養予防・疾病重症化予防の取り組み―自治体の活動から」 田中和美(神奈川県立保健福祉大学教授)
対談	注目したい高齢者の心のケア 香山リカ(精神科医)	社会とともに深化する医学・医療 齋藤英彦(名古屋医療センター名誉院長)
インタビュー	杵屋響泉(長唄三味線奏者)	加藤俊男(刃物専門店・木屋八代当主)
地域の鼓動	「いつまでも住み続ける町づくり」でNPOが化学反応を起こす (静岡県榛原郡川根本町)	お年寄りと子どもが雑木林の中でともに暮らす次世代型コミュニティ (愛知県長久手市)
エッセイ	女ひとり、老いを生きる日々 春号:「老いは新たな冒険の季節」 夏号:「無縁を生きる覚悟と不安」 沖藤典子(ノンフィクション作家)	

機関誌「Aging&Health」の発行内容

	秋号(91号)	冬号(92号)
エッセイ	立川らく朝の健康嘸 秋号:「笑ってハッピー」 冬号:「らく朝の三点セット」 立川らく朝(落語家・医学博士)	
巻頭言	Productive aging(高齢者の社会貢献) 柴田 博(桜美林大学名誉教授)	高齢者の定義再検討とその意義——企画の ねらい 大内尉義(虎の門病院院長)
特集	プロダクティブ・エイジング ①「Productive aging とは何か」 柴田 博(桜美林大学名誉教授) ②「国際的にみた日本人高齢者のプロダク ティビティ」 杉原陽子(首都大学東京 准教授) ③「柏プロジェクトにおける生きがい就労— 目的と成果」 辻 哲夫(東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授) ④「生活支援における高齢者の互助—その 可能性と問題点」 杉澤秀博(桜美林大学大学院老年学研究科 教授) ⑤「多世代関係における高齢者のプロダク ティビティー持続可能な地域共生社会をめざ して」 藤原佳典(東京都健康長寿医療センター研 究所社会参加と地域保健研究チーム研究部 長)	高齢者の定義再検討をめぐって ①「高齢者の定義再検討と新しい高齢者像 日本老年医学会の取り組み」 樂木宏実(大阪大学大学院医学系研究科老 年・総合内科学教授) ②「わが国の高齢社会対策と高齢者の定義 再検討」 牧野利香(内閣府政策統括官(共生社会政 策担当)付参事官(高齢社会対策担当)) ③「高齢者の定義再検討と社会保障」 権丈善一(慶應義塾大学商学部教授) ④「メディアの立場から」 南 砂(読売新聞東京本社常務取締役) ⑤「産業界の立場から人生 100 年時代を考 える」 渡辺捷昭(長寿科学振興財団会長)
財団の活動	長寿科学振興財団 設立 30 周年記念シン ポジウム 明るく活力のある長寿社会の実現に向けて ～人生 100 年時代を語る～	長寿たすけ愛講演会 2019 in 静岡／徳島 第 20 回 若手研究者表彰事業「長寿科学 賞」
インタビュー	池田きぬ(現役看護師)	田沼武能(写真家)
地域の鼓動	「いきがい焼き」づくりで高齢者の元気づくり (北海道中川郡池田町)	地域の“最後の砦”を守る“団塊の世代”ボラ ンティア (山梨県南アルプス市)
エッセイ	女ひとり、老いを生きる日々 秋号:「人生の絶景」と仲間たち」 冬号:「社会的活動寿命」 沖藤典子(ノンフィクション作家)	

(3)健康長寿ネット【自主財源】

6,733 千円

(9,709 千円)

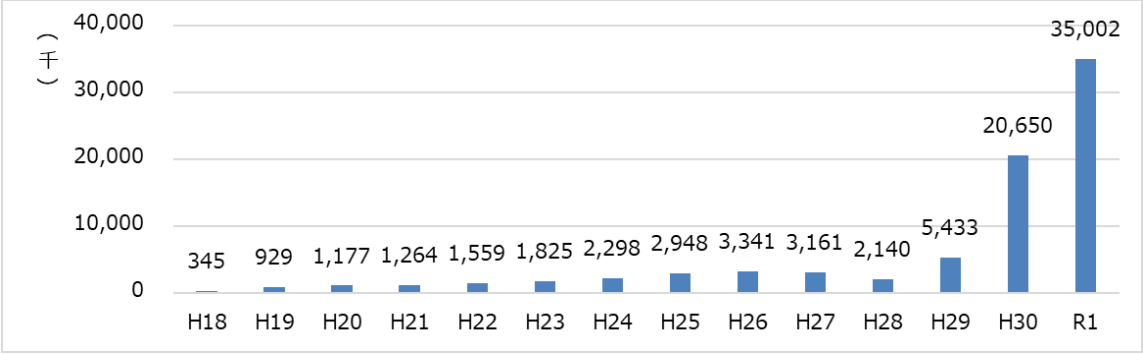
本財団のホームページ「健康長寿ネット」により、老化予防や健康づくり、疾病、介護予防など、健康長寿に関する情報をインターネットを通じて広く国民に提供している。また、同ネット上でいつでも介護予防のための生活機能チェック(介護保険法が定める基本チェック)ができる。

掲載内容と記事数(令和2年3月末時点)

項目	内容	H29	H30	R1
健康長寿とは	「高齢者の食事摂取基準」「運動器の老化」「日本人はなぜ長生きか」「高齢者の生きがい」など 自分でできる健康長寿のための情報を紹介。	265	306	382
高齢者の病気	「サルコペニアとは」「フレイルとは」「老年症候群」「認知症」「肺炎」など 高齢者に多い病気・症状をわかりやすく解説。	414	417	417
高齢者を支える制度とサービス	「認知症高齢者の日常生活自立度」「地域包括支援センター」「地域密着型サービス」など 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介。	79	84	150
対談・特集・研究情報	財団機関誌「Aging&Health」から対談・特集・研究情報を掲載。	105	161	226
エッセイ	評議員・役員エッセイ「人生100年時代の私の生き方」、井口昭久先生のエッセイ「老いをみるまなざし」、宮子あずさ先生「訪問看護師から老いをみると」他、財団機関誌「Aging&Health」からエッセイを掲載。	13	40	98
インタビュー	財団機関誌「Aging&Health」から“いつも元気、いまも現役”を掲載。	-	-	12
介護予防のための生活機能チェック	介護保険法による「基本チェックリスト」に基づく、介護予防のための生活機能チェック(25問)をインターネット上で提供。	39	39	39
合計		915	1,047	1,324

健康長寿ネット事業 アクセス件数

1. アクセス数推移（単位：千アクセス）



2. アクセス内容

項目	アクセス数 (訪問者数)	閲覧頁数 (ページビュー数)	1 訪問あたり 閲覧頁数	平均閲覧時間 (分)	直帰率	新規アクセス率
R1	35,001,763	45,831,963	1.31	1:00	85.59%	82.48%
H30	20,649,802	27,858,135	1.35	1:02	85.04%	82.60%
前年比(%)	169.5%	164.5%	97.0%	96.8%	0.5%	-0.1%

3. 訪問者属性（年齢別・性別・閲覧環境）

A) 年齢

年齢	18-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65～
R1 割合(%)	10.91%	28.88%	27.88%	15.69%	9.02%	7.61%
H30 割合(%)	14.16%	27.62%	26.25%	16.47%	9.51%	5.99%
前年比	-3.25	1.26	1.63	-0.78	-0.48	1.62

B) 性別

性別	男性	女性
R1 割合(%)	42.0%	56.0%
H30 割合(%)	39.6%	60.4%
前年比	2.40	-4.40

C) 閲覧端末

端末	モバイル	デスクトップ	タブレット
R1 割合(%)	75.09%	19.96%	4.95%
H30 割合(%)	70.36%	21.04%	8.61%
前年比	4.73	-1.08	-3.65

4. アクセスランキング（平成 31 年 4 月 1 日～R2 年 3 月 31 日）

Rank	タイトル	閲覧回数
1	貧血予防に良い食事・食べ物・調理方法とは	1,724,448
2	亜鉛の働きと1日の摂取量	834,736
3	三大栄養素の炭水化物の働きと1日の摂取量	750,264
4	水は1日どれくらい飲めば良いか	674,406
5	カリウムの働きと1日の摂取量	622,262
6	免疫力を高める食事とは	520,938
7	喀痰・咳嗽(かたん・がいそう)	519,272
8	マグネシウムの働きと1日の摂取量	484,735
9	ビタミンCの働きと1日の摂取量	475,780
10	ポリフェノールの種類と効果と摂取量	435,025

(4)長寿たすけ愛講演会開催事業【自主財源】

9,423 千円

(7,467 千円)

高齢社会の中で、明るく活力のある長寿社会の構築を参加者と共に考え、実践するきっかけづくりの場として、全国で介護予防や健康づくりをテーマとした講演会を開催した。

開催地 日時	演者 講演タイトル	参加人数
静岡県静岡市 H31.4.25(木) 13:55～16:30	小澤 治夫(静岡産業大学 副学長・経営学部教授) 「人生 100 年時代を生きる生活習慣のサイエンス」	800 人
	矢崎 昭子(前静岡県リズムムーブメント研究会 会長) 「みんなで体操 健康体操「すこやかエブリデー」」	
	神田 松之丞(講師) 「笑って、いきいき健康長寿」	
徳島県徳島市 R1.11.27(水) 13:30～16:30	飯島 勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構教授) 「なぜ老いる？ならば上手に老いるには ー健康長寿 鍵は「フレイル」予防ー」	800 人
	鷲 春夫(徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科教授) 「いきいき百歳体操(徳島版)で元気で長生き」	
	假屋崎 省吾(華道家)・LUNA(アーティスト) 「花と笑いは 心のビタミン」	

- ・ 田邊穰理事（静岡会場）にご臨席を賜った。

財団設立30周年を記念し「明るく活力のある長寿社会の実現に向けて、人生 100 年時代を語る」をテーマにシンポジウムを下記の会場にて開催した。

開催地 日時	演者 講演タイトル	参加人数
愛知県名古屋市 R1.5.18(土) 13:20～16:00	井村 裕夫(京都大学 名誉教授) 「国民すべての参加で作ろう健康長寿社会」	120 人
	佐藤 眞一(大阪大学大学院 人間学研究科 教授) 「高齢者のこころを理解して社会参加へのアプローチを」	
	秋山 弘子(東京大学 名誉教授) 「高齢者主体のイノベーションの場:鎌倉リビングラボ」	
	小出 宣昭(中日新聞社 顧問・主筆) 「コミュニティ再生と高齢者の権威」	
	パネルディスカッション 「明るく活力のある長寿社会の実現に向けて～人生 100 年時代を語る～」	
	パネリスト:井村裕夫、佐藤眞一、秋山弘子、小出宣昭	

開催地 日時	演者 講演タイトル	参加人数
	座長: 祖父江 逸郎(長寿科学振興財団 理事長) 大熊 由紀子(国際医療福祉大学大学院 教授)	
愛知県名古屋市 R1.10.12(土) 13:20～16:00	中村 桂子(JT 生命誌研究館 館長) 「38 億年の生命誌の知に学び、生きやすい社会を」	台風のため開催を中止 ＜参考＞ 申込者数 222 人
	田中 滋(埼玉県立大学 理事長) 「地域住民が主役となる地域包括ケアシステムの構築を」	
	近藤 克則(千葉大学予防医学センター教授) 「地域との関わりが高齢者の健康保持につながる」	
	小出 宣昭(中日新聞社 顧問・主筆) 「長寿社会と長男長女時代」	
	パネルディスカッション 「明るく活力のある長寿社会の実現に向けて～人生 100 年時代を語る～」 パネリスト: 中村 桂子、田中 滋、近藤 克則、小出宣昭 座長: 祖父江 逸郎(長寿科学振興財団 理事長) 大熊 由紀子(国際医療福祉大学大学院 教授)	
愛知県名古屋市 R1.12.26(木) 13:00～15:40	小野 庄一(写真家) 「百歳王からみる生命と光」	201 人
	永田 久美子(認知症介護研究・研修東京センター研究部長) 「地域住民が主役となる地域包括ケアシステムの構築を」	
	山崎 章郎(ケアタウン小平クリニック 院長) 「人生の最終章をどう生きますか？～自分で決めたい自分のこと(最期)～」	
	大島 伸一(国立長寿医療研究センター 名誉総長) 「超高齢社会における医療・介護」	
	パネルディスカッション 「明るく活力のある長寿社会の実現に向けて～人生 100 年時代を語る～」尊厳のある人生の最終章のために パネリスト: 小野庄一、永田久美子、山崎章郎、大島 伸一 座長: 祖父江 逸郎(長寿科学振興財団 理事長) 大熊 由紀子(国際医療福祉大学大学院 教授)	

4,581 千円

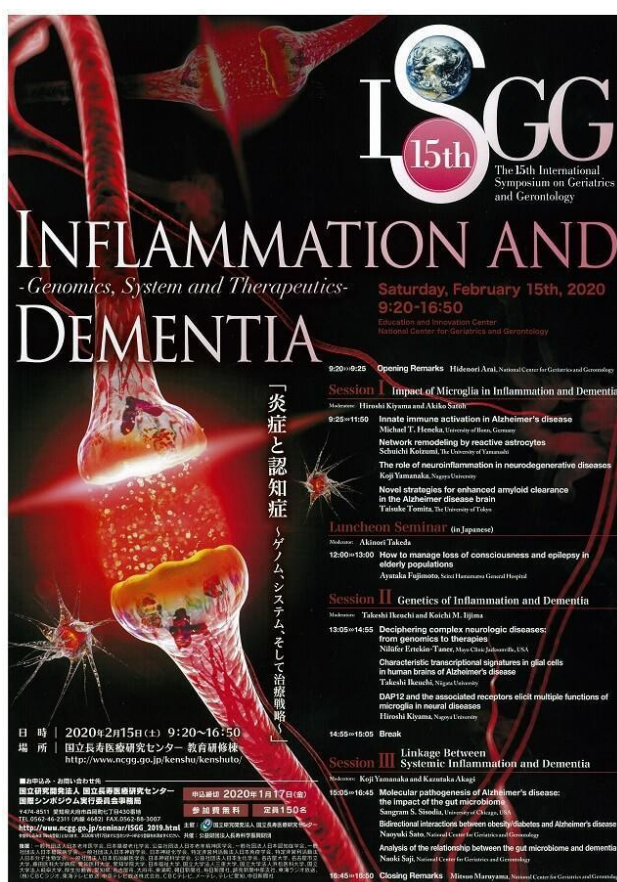
国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを決め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催し、研究成果などの普及啓発を図った。

日 時:令和2年2月15日(土) 9時30分～16時45分

場 所:国立長寿医療研究センター 教育研修棟

テーマ: Inflammation and Dementia ~Genomics, System and Thraapeutics

和 訳:炎症と認知症 ～ゲノム、システム、そして治療戦略



公益目的事業 3 ～調査研究事業～

長寿科学に関する調査研究事業

(1)アテンプト 2 研究事業【自主財源】

2,670 千円

(994 千円)

研究目的:平成 27 年度に終了したアテンプト研究事業の発展研究として、推算糸球体濾過値(eGFR)等のデータを収集し長期的なアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)治療の腎保護効果と心血管イベント抑制効果を明らかにする。

研究方法:調査票により各施設から心血管イベントの発生状況ならびに採血、採尿データを収集・分析
令和元年度はデータの収集、整理、蓄積を行い、蓄積した情報データの統計解析中。

登録症例数:アテンプト研究に参加した患者のうち、試験継続の承諾を得た 132 施設 717 人を対象とする

研究代表者:熊本大学保健センター 准教授 副島 弘文

研究期間:平成 29 年度～令和 2 年度(4 年間)

研究進捗報告(運営委員会)

日時:令和 2 年 2 月 19 日(水) 14 時～16 時

会場:名鉄ニューグランドホテル 7 階 花の間

出席委員:柳澤信夫理事 加賀美幸子理事 齋藤英彦理事

田邊 穰理事 戸川達男理事